



TAKARAZUKA UNIV. 25th

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます

2012年、宝塚大学は創立25周年を迎えました



作：イラストレーションコース4年 澤木愛さん（群馬県 学芸館高校出身）
※本作品は第6回「宝翔祭」のポスターに採用されています

第6回 宝翔祭

9月16日（日）、17日（月・祝）開催



「新宿クリエイターズ・フェスタ 2012」開催

新宿区の夏の一大アートイベント「新宿クリエイターズ・フェスタ 2012」が、24日からスタートします。第2弾となる今回は“アートと過ごす夏時間”をテーマに、新宿区名誉区民の草間彌生氏の特別企画展や学生によるアート・コンペティションなどが行われ、新宿のまち全体が巨大なアート空間となります。

本学は学生アート・コンペティションを中心とした企画に参加します。映像技術の未来を担う学生のCGやアニメーション作品を上映、表彰する「デジタル映像部門」のプロデューサーを川村順一学部長、審査委員を大村皓一副学長が務めます。デジタル映像部門のコンペティションには、アニメコースの学生作品が多数エントリーされており、各会場で上映されます。さらに、映像制作現場で活躍するトップ・クリエイターによる特別セミナーが企画されており、新宿キャンパスでは25日に、ドキュメンタリー映画「DON'T STOP!」(小橋賢児監督)の特別試写会とトークセッションが開催されます。各会場で日本のコンテンツ産業の未来を体感してください。

また、本学が歌舞伎町タウン・マネージメントの広報大使を務める「歌舞伎町広報大使」に就任している関係で、『新宿クリエイターズ・フェスタ』の歌舞伎町ゾーンのプロデューサーを渡邊哲意准教授が担当します。歌舞伎町エリアでは、学生が主体となり企画・運営する「学生万博」(次頁参照)が催され、本学からも多くの学生たちがイベントに参加する予定です。

■新宿クリエイターズ・フェスタ 2012 ～アートと過ごす夏時間～

期間：8月24日(金)～9月2日(日) ※一部のイベントは8月18日(土)から開催

主催：新宿クリエイターズ・フェスタ 2012 実行委員会、新宿区

後援：経済産業省、東京都

URL：<http://www.sccf.jp/> ※詳細はホームページをご覧ください。

■ドキュメンタリー映画「DON'T STOP!」特別試写会&トークセミナー

日時：8月25日(土) 13:00～16:00 (開場 12:00)

会場：宝塚大学 新宿キャンパス 2階 (先着順、入場無料)

出演：小橋賢児 (監督)、川村順一 (宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部 学部長)

「学生万博」に参加

「新宿クリエイターズ・フェスタ 2012」（主催：同フェスタ実行委員会、新宿区）の開催に伴い、学生が主体となって企画・運営するアートイベント「学生万博」が、31日から9月2日まで大久保公園、シネシティ広場を中心に繰り広げられます。アートイベントは、手作りのアート作品やコミックの展示販売、ファッションショー、音楽ライブなどが企画されています。

「学生万博」は、学生同士の“つながり”、アートというツールで繋がる“偶然の可能性”により、歌舞伎町に新たな賑わいを創出することを目的としています。

「学生万博」の委員会は、様々な大学の学生有志で構成され、本学からは坂口茜さん（イラストコース4年、神奈川県立白山高校出身）、石川雄仁さん（ゲームコース2年、渋谷教育学園渋谷高校出身）が参加しています。また、本学の学生たちのアート作品やコミックの展示販売ブースも設けられているほか、巨大マンガ壁画などのライブペイント企画や、似顔絵やボディペイントなどの参加型企画も行われます。

■学生万博

期間：8月31日（金）～9月2日（日）

運営：「学生万博」企画委員会

公式WEBページ：<http://gakuseibampaku.net/>



第1会場：大久保公園（新宿区歌舞伎町2-43）

時間：11：00～17：00（入場無料）

■「発信の場」

・ずっきゅんマーケット

学生やアーティストによる展示・物販エリア。

・アートコンテナ

映像制作合宿「メディアキャンプ新宿」で作られた映像作品などを上映。

・ステージイベント

ライブペイントやダンス、演奏など様々な発表が行われます。

■「発創の場」

全長12メートルの巨大壁画の制作や、似顔絵缶バッジなどの参加型ワークショップで創作を行うエリア。

■「発見の場」

様々な学生の活動や社会とのつながりなど、普段見ることができない活動を見て新たな発見をするエリア。

第2会場：シネシティ広場（新宿区歌舞伎町1-19）

時間：17：00～20：30（入場無料）

8/31（金）「JAPAN CULTURE×新宿」

学生企画のコスプレコンペティションや、初音ミクを中心としたサブカル系のコスプレファッションショーを開催。

9/1（土）「Tonari Girls Festa×新宿」

文化の新しい発信地でもある台湾とファッションの感度が高い女子大生を中心にコラボファッションショーを開催。

9/2（日）「Student Creator×新宿」

日本の服飾系大学、服飾系サークル団体、台湾から服飾専門大学の優秀な学生を招き、各団体対抗のファッションコンペティションを実施。

※両会場のイベント詳細は公式WEBページをご覧ください。

生田さんと富田さんが 2 人展 第 1 回 Pochette 展

イラストレーションコース 4 年の生田恵利さん（東京都立晴海総合高校出身）と富田千尋さん（東京農業大学第三高校出身）による 2 人展「第 1 回 Pochette 展『RETRO♥Kawaii ～ Summer Collection～』（7 月 31 日～8 月 5 日）」が、文京区関口のギャラリー・ノイで開催されました。



富田さん（左）と生田さん（右）

展覧会のテーマである“RETRO♥Kawaii”について 2 人は、「私たちは今まで、レトロ調の絵柄や色調の作品を主に作っていました。そこに、海外からも認知されている、今の日本の“Kawaii”という文化を混ぜてみることを思い立ち、今回のテーマにしました」と説明。レトロな絵柄の中に現代的な色彩を織り交ぜた作品は、展覧会決定後に描いた新作がほとんどで、「授業の課題との並行で制作は大変でしたが、なんとか間に合いました」というほど、多忙な中での制作となりました。

今回の展示会場は、東京メトロ有楽町線「江戸川橋駅」近くの、新目白通り沿いにあるガラス貼りのギャラリーで、外から中の作品を見ることができました。「外からギャラリーをのぞいた人に、私たちの作品を見て『かわいい』と言ってもらえたり、作品を気に入った近所の方にほぼ毎日訪ねていただいたりして、本当にうれしかった。この場所で展覧会を開くことができよかったです」と、2 人にとって初めてのグループ展が成功したことを喜んでいました。



富田さんの作品（左）と生田さんの作品（右）

シンガーソングライターの自伝漫画 たちばな講師と上原さんが合作

マンガコースのたちばないさぎ講師が原作・構成、宝塚大学大学院の上原愛弓さん（ペンネーム：川端新）（神奈川県立大磯高校出身）が作画を担当した、シンガーソングライター・森圭一郎さんの自伝漫画『うたで走り抜く』（少年画報社刊）が、9月15日に発刊されます。

森さんは、中学時代に不良グループに入り、高校時代に大きなバイク事故に遭遇。一命をとりとめたものの下半身不随になってしまいました。その後、絶望の底で音楽と出逢い、様々な壁を乗り越え、シンガーソングライターとして独り立ち。車椅子の身でありながら、自らクルマのハンドルを握り、日本単独縦断ライブツアーを敢行したり、200局近いミニFM局を訪問するなど積極的な活動をしています。本書は、その波瀾万丈の人生を描いた作品です。

原作・構成・作画を担当するたちばな講師と上原さんは、2011年7月に発売された『マンガでわかる公認会計士 一松本翔の事件簿一』（イーストプレス刊）でも、共同で作品制作を担当（他の学生も作画で参加）。今回が2度目の共同制作です。



タイトル：うたで走り抜く
発売日：2012年9月15日（土）
価格：1,500円（税込）
販売：書店、ネット書店、少年画報社通販サイト、森氏ライブコンサート会場など
その他：録り下ろしの新譜3曲を収録したCD付き。

■森圭一郎氏 プロフィール

1978年1月9日、埼玉県熊谷市生まれ、34歳。16歳の時に、バイクによる交通事故で下半身不随となり、車椅子生活に。その後音楽と出会い、人生を救われる。ブルース・ロックをバックボーンにし、自身の生き様を魂の叫びで歌いあげる。24歳の時に1枚目のCDをリリース、その後5回の日本縦断ツアーを実施。現在までCD9枚をリリース。昨年10月の、国内および海外から選抜された約10組の障がい者の音楽コンテスト「第8回ゴールドコンサート」で、楽曲賞とグランプリをダブル受賞。今月2日からは、43日間のアメリカ横断ツアー「Road trip 2012」を実施中。



〈たちばな いさぎ 講師 プロフィール〉

神奈川県横須賀市生まれ。高校卒業後、横浜簿記専門学校入学。簿記専門学校卒業後、建設機械製造会社（株式会社加藤製作所）入社、イラストの仕事・漫画家アシスタントを兼業。2年間の勤務後、白泉社「花とゆめ」誌で漫画家デビュー。結婚・出産後、あおば出版より「ハムハムえぶりばでい」を発刊。ベネッセコーポレーションでDM（ダイレクトメール）漫画を執筆。白泉社「silky」誌でドキュメンタリー漫画の仕事のほか、「ナチュラル～障害はあたしのブランド～」（共著・中経出版）、「あにスペ」誌（イースト・プレス社）で「ひなたの風景」の連載を開始。「あにスペ」休刊後、2010年4月に「ひなたの風景～聞こえる、犬や猫たちのSOS～」（イースト・プレス社）を出版。2008年より、宝塚大学 東京新宿キャンパス マンガコースの講師。

「神楽坂まつり ほおずき市」で似顔絵描き

昨年に引き続き「がんばろう！日本」のテーマのもと開催された「第41回神楽坂まつり」に、7月25、26日の両日、イラストレーション、マンガコースの学生8人が似顔絵描きで参加しました。

「神楽坂まつり」は、25～28日の4日間開催。25、26日に「ほおずき市」、27、28日に「阿波踊り大会」が行われ、学生たちは神楽坂通りに設営されたブースで見物客らの求めに応じて似顔絵を描いたり、似顔絵缶バッジを作って提供するなど祭りの盛り上げに貢献。夏休み期間中ということもあり、平日にも関わらず、ブースには子供から大人まで多くの人々が訪れ、目の前で描かれた似顔絵と缶バッジに喜んでいました。



浴衣姿で似顔絵を描く学生たち



喜ばれた似顔絵缶バッジ

北見教授らによる3人展

イラストコースの北見隆教授が参加したグループ展『美の方舟』展が、東京都中央区のあらかわ画廊でこのほど行われました。

展覧会には北見隆教授のほか、長谷川健司氏、舟山一男氏が参加。『美の方舟』は、2007年に北見教授と長谷川氏の2人展として始まった企画展で、翌年から舟山氏が参加して3人展となり、今回で4回目の開催です。



出展された北見教授の作品『親族会議』

<北見隆教授 プロフィール>

武蔵野美術大学商業デザイン科卒。イラストレーター。絵本『夢から醒めた夢』や『聖書物語』などの作品で知られる。廃材を利用して立体作品などを生み出すリサイクル・アートでも積極的に活動。受賞歴は「第13回サンリオ美術賞」、「ブラチスラバ絵本原画ビエンナーレ 金のリンゴ賞」など。

岡崎さんが奨励賞を授賞

コミック雑誌「月刊少年ライバル」（講談社刊）が主催するマンガ賞「少年ライバル 月例コミック新人賞」の5月期募集分で、マンガコース4年の岡崎真澄さん（ペンネーム：崎岡澄真）（広島県並木学院高校出身）の作品『死神』が奨励賞、マンガコースOBの川口藍さん（ペンネーム：赤野天道）（2012年卒・都立北園高校出身）の作品『信じる魔女は救われない』が期待賞をそれぞれ授賞しました。

なお、奨励賞を授賞した岡崎さんは、月刊少年ライバル主催のもうひとつのマンガ賞「第7回ライバルコミック大賞」でも、佳作及びマンガ家の森川ジョージさんが選んだ「森川賞」を授賞しています。（作品名：『ハエ叩き部』）



岡崎さんの作品『死神』のひとコマ

■『死神』への編集部の講評

死神の奇抜でシュールなデザインが秀逸。細かいギャグまで精度が高く、独特な世界を最後まで飽きずに読めます。ストーリー漫画パートと四コマ漫画パートが混在していて、少し読みづらいのが難点。ページ数の短さもありますが、オチが弱いのもう一工夫を期待したいです。

「Rio & Syuga」のライブ運営に協力

高い演奏力で定評のある学生ピアニスト・Rioさんと少年バイオリニスト・林周雅さんのコンビ「Rio&Syuga」によるライブが、7月27日に新宿コズミックセンター プラネタリウムで行われ、当日のライブ運営に渡邊哲意准教授と学生らが協力しました。

Rio&Syugaは、昨年12月に開催された「歌舞伎町クリスマスコンサート」で、イラストコースの学生たちとライブペイントで共演したほか、宝塚大学の創立25周年記念式典で校歌を演奏するなど、本学とつながりの深いミュージシャンです。

今回は、3月の「歌舞伎町ルネッサンス ライブミュージックプロムナード特別企画」に続き、ライブ機材のセッティングやライブ運営などを学生が担当。プラネタリウムという珍しい会場でのサポートでしたが、スムーズに運営することができました。

ライブでは、Rio&Syugaが『セルリアンブルー』や『情熱大陸』などを演奏。来場者は、曲に合わせてプラネタリウムの色が変わる幻想的な空間で、2人の演奏に聴き入っていました。

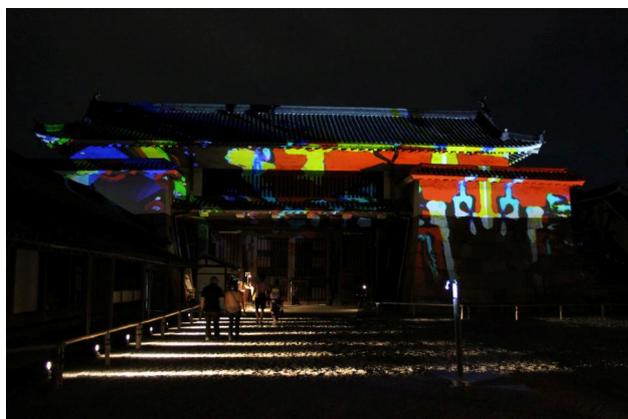


ライブ前の綿密なセッティング

二条城でのデジタル掛け軸に渡邊准教授が参加

「願い」「東日本大震災復興支援」をテーマに京都で開催されたイベント「京の七夕」(8月4日～13日)で、渡邊哲意准教授が、二条城での「デジタル掛け軸 DK-LIVE」*に現場ディレクターとして参加しました。

今回の「デジタル掛け軸 DK-LIVE」は、期間中、二条城の東大手門から東南隅櫓(城内側)一帯の壁面で実施。会場となった堀川会場を訪れた多くの観光客は、壁面に映し出された、刻々と変化する幻想的な映像に見入っていました。



二条城で行われた
「デジタル掛け軸DK-LIVE」の様子

*デジタル/掛け軸(D-K)

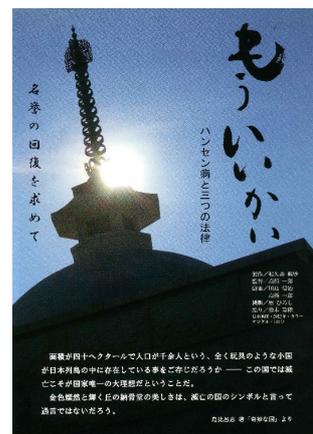
デジタルアーティストの長谷川章氏が考案した独創的なライトアップ手法で、100万枚に及ぶデジタル映像をコンピューターにアトランダムに組み合わせ、歴史的な建造物や雄大な自然などに映写して、幻想的な空間を創り上げる世界初のアートスタイル。偶然の連続で創り出される映像は、二度と同じものを見ることができない一期一会のアートとも言える。オーロラのようにゆらぎながら変化していく映像は、一人ひとりの受け止め方が異なり、まるで心象風景のような光景は見た人の心を釘付けにする。茶の世界では茶室の何もない空間に掛け軸を飾ることで世界観が表れる…まさに「色即是空、空即是色」に通じる東洋思想から「デジタルカケジク」の名称が生まれた。

高橋准教授の監督作品 各地で上映

造形芸術学部(宝塚キャンパス)の高橋一郎准教授が監督・脚本を務めた作品『もういいかい ハンセン病と三つの法律』が、全国各地で順次上映しています。

「ハンセン病」がテーマの本作では、療養所や入所者の生活などについて、その仕組みと実態を多くの証言に基づいて検証し、彼らの運命を決定づけた“三つの法律による絶対隔離政策”など、100年にわたるハンセン病の歴史が描かれています。

これまでに、大阪府、兵庫県内などで上映され、9月には東京・渋谷のオーディトリウム渋谷(渋谷区円山町)〔上映期間:1日(土)～14日(金)〕のほか、姫路市や広島市で上映されます。



■高橋監督コメント

ハンセン病問題は、これからの私たちの社会を考えるうえで大切なことを教えてくれます。それは、「すべての病む人が安心して生きていける社会を作ること」です。人は病む存在です。どんな病を抱えていても、人は平等に生きていく権利を持っています。ハンセン病問題は、国家が政策として特定の病者を抹殺しようとした驚くべき事例です。さらに驚くべきことは、民主主義の時代のつい先ごろまで、その政策が生き続けていたことです。私たちが病気になっても安心して生きていくため、ハンセン病問題は繰り返し語られねばならないと思います。

「夏期集中公開講義」を開講

現役クリエイターである本学の教員たち（川村順一教授、松本零士教授、竹内一郎教授、月岡貞夫教授、崔洋一教授など）による「夏期集中公開講義」が、7日から5日間連続で開催されました。

公開講義は、講義授業と実技授業に分かれ、芸術系分野を志望する高校生、本学の在学生在が参加。また、地域連携活動の一環として、講義授業を地域住民（新宿区及び東京都在住者）に無料で開放し、メディア・コンテンツ分野への興味・関心を高めてもらう目的で行われました。

公開講義初日には、約30人の高校生や新宿区民らが受講。まず川村順一教授が挨拶し、5日間を通してのガイダンスを行い、続いて「コンテンツ産業の現状と就職力」をテーマに行われた川村教授の講義に、受講者たちは熱心に聴き入っていました。

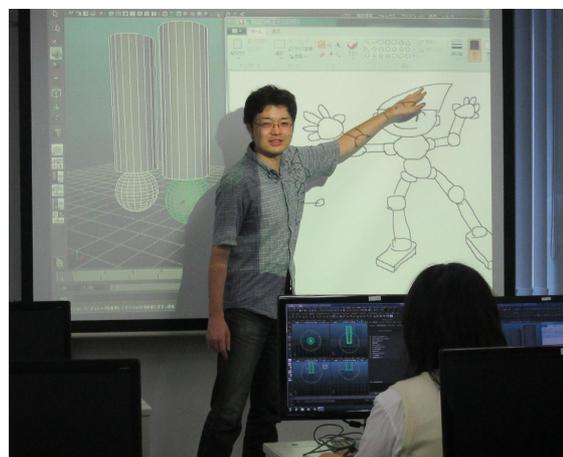


川村順一学部長



実技授業「人物クローキ」

担当：安田隆浩講師



実技授業「初めての3DCGアニメーション」

担当：大倉有樹助教

■ 公開講義

	8月7日	8月8日	8月9日	8月10日	8月11日
講義授業	「コンテンツ産業の現状と就職力」	「個性の確立を目指す創作への道」	「人は見た目が9割」日本人のための非言語コミュニケーション	「ジャパアニメーションとは何だ」	「映画の未来とメディア」
担当	川村順一教授	松本零士教授	竹内一郎教授	月岡貞夫教授	崔洋一教授

在校生によるトークセッション

夏のオープンキャンパスのスペシャルイベントとして、在校生7人によるトークセッションが5日に開催されました。「社会につながる行動力」をテーマにしたトークセッションでは、渡邊哲意准教授が司会を務め、在校生は授業以外の“学外活動”について自らの経験を語りました。



学生たちの学外活動は、新宿区で開催されるアートイベントの企画や、自主展示会の主催、東日本大震災復興支援活動など多岐に渡ります。学外活動を通して感じたことについて、学生たちは「普段とは違う刺激を得ることで自分の分野に活かせる」「アートの持つ力を、学外に出ることで初めて実感できた」「当初は大学で同じ友達とばかりいつも一緒にいて引きこもっていましたが、今は色々なことに挑戦したいという欲がどんどん出てきている」など、社会につながることのメリットを自分自身の言葉でオープンキャンパスの参加者に伝えました。



(左から) 南貴大さん(マンガ4年、埼玉県浦和学院高校出身)、中込健人さん(アニメ3年、東京都立工芸高校出身)、小野寺真央さん(イラスト2年、宮城県気仙沼高校出身)、藤原瑞紀さん(イラスト3年、宮城県宮城野高校出身)

なお、夏のオープンキャンパスは19日が最終回です。当日は予約不要で、入退場、服装は自由です。保護者の方もご参加いただけますので、ぜひお越しください。

■夏のオープンキャンパス

日時：8月19日(日) 10:00~16:30

特別授業(午前・午後)のほか、在校生と講師によるトークセッション(テーマ:「イラストレーションの未来」「イラストレーションの可能性と学生時代に学ぶべき事」)を開催

アニメコース	午前	お化けを描く
	午後	パラパラアニメで動きをつくる
マンガコース	午前	デジタル彩色
	午後	
ゲームコース	午前	君にも出来る!? 触れるスマホアプリ制作に挑戦! ~目指せ世界デビュー!~
	午後	
イラストコース	午前	絵本とイラストレーション
	午後	物語の世界を描く

8月19日に行う各コースの特別授業

授業紹介

短編マンガ〔受講学年：マンガコース2年（必修課目）担当教員：萩原京子専任講師〕

この授業では、作者の個性を生かした“他人に読んでもらうためのマンガ”を描くことを学びます。

そのために、「自分が描きたいものは何か」を意識しながら、プロット※1、ネーム※2の各段階で、商業誌の打ち合わせに即したチェックを萩原講師から受けます。それにより“プロの世界ではどんなことが求められるのか”を認識し、“自分の個性や適性”を見極め、原稿制作・完成へとつなげていきます。

※1 プロット…マンガ等の創作物における枠組み・構成・設計図。

※2 ネーム…漫画を描く際のコマ割りやコマごとの構図、セリフ、キャラクターの配置などを大まかに表したものを。



萩原京子専任講師

授業の最終回では、これまで各自が制作してきた作品のプレゼンテーションを実施。学生たちは、原稿を前方の大型ディスプレイに映し出し、そのストーリーやキャラクターについて萩原講師や他のクラスメートに説明しました。閉店間際のコンビニのペットボトルが「どれが売れ残るか」について論争を繰り広げるギャグマンガや、魔法に対する偏見を持つ主人公が魔法使いと出会うことでその考えを変えていくファンタジーマンガなど、多種多様な作品が紹介されました。それらの中でも、特に躍動感あふれる原稿や、緻密に描き込まれた原稿など、レベルの高い作画が映し出されると、学生たちからは感嘆の声が上がりました。

授業の終わりに、萩原講師は、「マンガは描かなければ上達しない。本気で漫画家になりたい人は、編集部への作品の持ち込みや投稿を積極的にしてほしい。1回、2回だめだったからと言って諦めないこと。また作品は、完成させてこそ次のステップに進める。必ず完成させること」と、マンガ家を目指す上で大切な心構えについてアドバイスしました。さらに、「自己満足に陥らず、誰かに伝える作品を描いてほしい。読者を味方につけるマンガを描いてください」と、読者の視点を考えることの重要性についても強調しました。



ディスプレイに作画を映しながらプレゼンを実施



作品のストーリーに込めた思いについて説明する学生

教員紹介

井上幸喜教授(ゲームコース)

人生のシナリオをゲーム的に考える

今の学生たちは子どもの頃からゲームをやっている、その当時に「もっとこういうことを知りたい」、「体験したい」と感じていた思いが、これからはゲームを通じて現実の世界で表現されるようになるかもしれません。今はまだゲームという言葉しかありませんが、これはゲーム機が必要ない現実の世界のゲームです。例えば、ARG (Alternate Reality Game : 代替現実ゲーム) というものがありますが、これはオリエンテーリングのように、日常世界をゲームの一部として取り込んで、現実とフィクションを交差させる体験型の遊びです。ARG は、映画のプロモーションやイベントで用いられていますが、ゲーム機器が無くても参加することができます。教育分野で使用されれば、架空の昆虫を探すゲームに子どもたちが参加して、指示に従って昆虫を集めて、実際の昆虫の生態をより深く学ぶゲームなどが生まれるかもしれません。



井上幸喜教授

少しずつ学び、課題をクリアして体験していくというゲームの特徴は、社会的にとっても価値のあるものです。実は、若い学生たちのほうがゲームを通して蓄積した経験値が大人より高い。一見すると、ゲームという言葉によって価値がないように思われがちですが、まだ価値を見出す人間が少ないだけだと思います。学生たちには、今あるゲームに対する固定概念を捨て、ゲーム的な考えを活かして、社会や生活が良くなることを提案する「ゲーミフィケーション」的な発想を身につけて欲しいです。

ビジネス上でよく Win-Win の関係と言いますが、これからは Happy-Happy の関係が重要だと思います。つまり、コンテンツの開発者も含めて、売り手も買い手も全員が“嬉しい”“楽しい”という思いを共有できること、そうした形でビジネスも回っていくような気がします。

シナリオの授業で、「人生のシナリオをゲーム的に考えてみなさい」と学生に話すことがあります。もちろん、ストーリーの最後は誰でも「エンド=死」ですが、この死に対する暗いイメージをハッピーエンドに終わらせるために、死ぬまでのシナリオをいかに描くかという考え方です。たとえば、大学入試という小さな敵がいて、敵と戦うための武器をどこで手に入れるかなどを、何を勉強してどう攻略するかという様に置き換えていけば、全てゲームに落とし込めます。ゲーム上で選択に迷っていたとしても、プログラムとしては 0 か 1 の 2 択。答えは意外と単純です。こうした考え方ができるようになると、人生で悩まなくなり、決断ができるようになります。「ゲーミフィケーション」の定義は様々ですが、こうしたゲーム的な“考え方”も「ゲーミフィケーション」のひとつだと思います。

ゲームは誰かが作ったシナリオの中を遊ぶもの。だったら自分で人生のシナリオを描いてゲーム感覚で進むほうが楽しい。選択を間違っても戻ればいい。失敗は負の要素ではなく、経験値のひとつとして捉えていけるようになります。

<井上幸喜教授 プロフィール>

1993 年ソニー・ミュージックエンタテインメントに入社。PlayStation 用ソフト『クーロンズゲート』の企画・アートディレクションなどを担当。1999 年、有限会社ジェットグラフィクスを設立。30 本以上のゲーム制作に携わる。2007 年に同社をキャンパス内に移転し、その後株式会社 JETMAN 設立。コンテンツクリエイターの育成、スマートフォンコンテンツ制作に取り組む。著書に『iPhone SDK3 プログラミング大全ゲームプログラミング』、『iOS プログラミング Adobe Flash で作る iOS アプリ』など。

学生紹介

ゲームコース 3年

河田佳美（埼玉県 浦和学院高校出身）

クリエイター同士で横の繋がりを

— グループ展「Unknown EGG -TIME-」の開催

グループ展「Unknown EGG」は、アート作品の発表の場と学生間交流の場を提供するプロジェクトとして、昨年、私一人で立ち上げました。1回限りの開催予定でしたが、参加者の要望を受けて定期開催にしました。3回目となる今回の展示には、全国から10校、24人が参加し、「TIME（時間）」をテーマにした作品の展示を予定しています。会場は原宿で、過去の開催では平日でも1日70～80人の来場がありました。

当初、1回目の開催は2011年3月を予定して準備を進めていました。そんな中で、東日本大震災が発生。主催者としてギャラリーの方と開催の是非について話し合い、延期を決めました。過去2回の開催を通じて、主催者としての責任感や人をまとめる力など、自分の成長にもつながっていると実感しています。クリエイティブ業界では横の繋がりが必須ですが、グループ展が多く学生にとってそのきっかけづくりの場になればと思います。



河田佳美さん

— ゲームコースを選んだ理由

他の芸術系大学のデザイン科への進学も選べましたが、宝塚大学は所属コース以外のイラストやマンガの授業を受けることができ、その都度、自分の興味に合わせた履修ができるという点が「私の性格に合っている」と思い、選びました。ゲームコースを選んだ理由は、PCスキルを身につけるためです。将来は雑誌などの編集をデザインする“エディトリアルデザイナー”になりたいので、授業のほか、独学でも専門ソフトの使い方を勉強しています。エディトリアルデザイナーとしてどこかの会社に就職し、まずは実務経験を積む。その後に、新たな選択肢が広がると考えています。

— 大学生活について

入学してすぐに軽音サークルに入り、学園祭などでライブを行っています。今年の夏はグループ展の開催や新宿クリエイターズ・フェスタでのブース出展の準備などがありますが、自分の中でスケジュールを組み、勉強と学生生活の両方を楽しんでいるので焦りはありません。

■Unknown EGG Project

URL : <http://kwt.digi2.jp/uepj/>

■「Unknown EGG -TIME-」開催概要

日時：2012年8月22日（水）～8月28日（火）

11：00～20：00 ※入場無料

会場：デザイン フェスタ ギャラリー原宿

EAST 301 ROOM

住所 渋谷区神宮前3-20-2



学生紹介

大学院修士課程 2年

武石友美（東京都立六郷工科高校出身）

進路、学生生活に広い視野を

— 教職の道と現場の視点

大学4年時は就職活動をしていましたが、大学に残って教員にならないかと誘いを受け、大学院への進学を選択しました。現在は修了制作に向けてデジタル絵本を制作しています。iPadなどのタブレット端末でデジタル絵本を読んでもらうので、単にページをめくるだけの絵本ではなく、2Dのアニメーションを加えました。また、ユーザーを飽きさせないために、画面のある部分をタッチすると物語の結末が変わるといったゲーム性も含ませる予定です。

宝塚大学は、各業界に精通した現役クリエイターが教員であることが特長です。私も将来は教職の道とは別に、WEBサイトやゲーム画面の操作に関わるユーザー・インタフェース（UI）など、デザインに携われる職に就いて、学生に現場のことを伝えていきたいです。



武石友美さん

— 中国とのかかわり

母親が台湾の出身ということもあり、小さいころから中国語に触れる環境で育ちました。今年の3月に北京師範大学珠海分校の学生と教員が来校した際、私は通訳などのサポート役を務めました。本学の特別講義の受講や学生との交流会などの相互交流を図る機会があり、中国語を活かして日本と中国の橋渡しをしたいという思いが叶ったのでよかったです。

現在、宝塚大学に留学している中国人の学生たちのサポートも行っています。留学生は卒業後、中国に戻って大学の先生になったり、日本で就職したりと、進む道は異なりますが、卒業後も友情関係は続いています。今後は、新宿キャンパスから中国へ留学する学生や、教員の交流がもっと盛んになっていくかもしれません。日本人の感性と日本で学んだ中国人の感性がミックスされれば、良い作品が生まれるはずですよ。そのために、学生にはもっと交流を広げて、お互いの知らない世界を知って欲しいと思います。

— 大学の「自由さ」

大学の第1期生として入学しましたが、宝塚大学は「自由な大学」だと感じています。熱意によって良くも悪くも変わるものですが、意欲のある学生にとっては素晴らしい環境です。例えば、空き時間に専門分野以外の授業を受けることが出来ます。私はアニメーションコースに在籍していましたが、他コースの授業を受け、知識を広げることが出来ました。その経験から企画を考えると、違った視点から発想が生まれることがあります。後輩には、卒から飛び出してどんどん技術や知識を吸収して欲しいです。

課題とは別に友人を誘って作品づくりに励んだり、学内のサークルや個人の趣味に没頭できる、そういう自由さもこの大学の良いところだと考えています。

今後の予定

■ 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部「オープンキャンパス」

日 時：9月9日（日） 13：00～16：30

内 容：学校紹介、入試説明、特別講義、コース紹介、相談コーナー、作品展示など

※オープンキャンパス特設サイトを公開中です

<http://www.takara-univ.ac.jp/tokyo/opencampus/>

■ 「宝翔祭 2012」

日 時：9月16日（日）～17日（月）

内 容：今年で6回目を迎える「宝翔祭」は、テーマを「童話」、キャッチコピーを「新宿童話劇場」として、様々なイベントを実施します。アニメ『NARUTO ーナルトー』のうずまきナルト役などでお馴染みの声優・竹内順子さんによるトークショー、シンガーソングライター・森圭一郎さん（p.5参照）のライブ、4人組バンド・唱頂の大員によるライブ、秋葉原のDJクラブ「MOGRA」で活躍するDJによるアニソン（アニメソング）クラブイベントなどを予定しています。

■ 東京ゲームショー 2012「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部ブース」の出展

期 間：9月20日（木）～23日（日） ※20・21日はビジネスデー

会 場：幕張メッセ（千葉市美浜区）

内 容：コンピューターゲームを始めとするコンピューターエンタテインメントの日本最大規模の総合展示会「東京ゲームショー 2012」にブースを出展します。

■ 竹内 一郎 教授 作・演出の舞台「トキワ荘の夏」

期 間：9月1日（土）～3日（月）

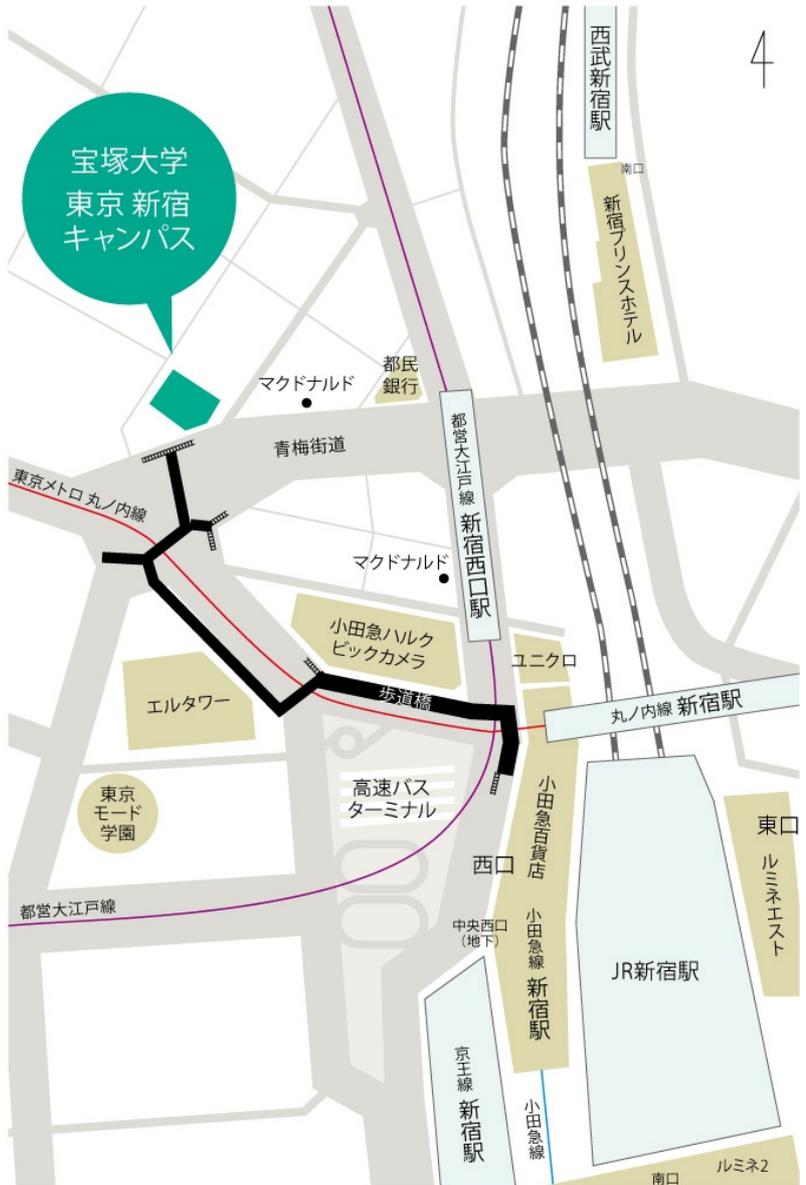
会 場：南大塚ホール（東京都豊島区南大塚）

内 容：昭和30年、豊島区椎名町にあったアパート「トキワ荘」に集った、マンガに魅せられた若者たち。彼らが熱心に語り合い、真剣にぶつかり合い、悪戦苦闘しながらもマンガの中に夢や希望を描き続けていた、戦後日本のマンガ黎明期を描いた渾身の作品です。（豊島区制施行80周年および南大塚ホールリニューアル記念として上演）





■ 周辺マップ



<宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部に関する情報のお問い合わせ>

宝塚大学 東京 新宿キャンパス 広報室
担当:金澤、山本 TEL:03-3367-3411

<ご掲載・写真データ等に関するお問合せ>

宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部 広報事務局 共同 PR 株式会社
担当:江頭、高橋 TEL:03-3571-5228